製品開発 Story vol.1 【プッシュ綿棒開発秘話】

―プッシュ綿棒の開発経緯を教えてください。

上本：プッシュ綿棒は薬液一体型の綿棒ですが、看護師さんたちの声から生まれました。当時の営業マンが得意先で万能壺の取扱いに関して手間がかかる、感染的に問題があると聞いてきた意見を製品化しようということで開発が始まりました。もう、20年以上前のことです。

ほとんどの病院で万能壺を使用しており、落下細菌や万能壺の管理等、課題ではありましたがそこまで重要な問題として認知されていなかったと思います。

当時は感染管理認定看護師と言うポジションは存在せず、感染担当の看護師さんに意見を聞きながら開発に取り組んでいました。

―当時はインターネットがそれほど普及していたわけではないと思います。どのように商品が普及していったのでしょうか。

上本：一番、影響があったのは日本環境感染学会学術集会の展示会です。プッシュ綿棒に非常に興味を持っていただき、たくさんの方にご紹介させていただきました。その後、多くのご施設で採用していただきました。

２００５年以降に採用いただくご施設が徐々に増えていったと思います。弊社にとっては良い追い風になった出来事です。

―製品の開発ポイントやこだわりは？

上本：製品を開発する際、まず、綿棒と薬液を別々に包装する方法はどうしようか悩みましたが、**地元のスーパーで買い物をしている時に、販売されているハムを見て、ポケット型の形状をひらめきました。**手書きの図面を提携している包装の会社に持ち込み試作づくりが始まったことを今でも覚えています。

大きな特徴は、**綿棒を薬液部分に押し込んで、含浸させるタイプ**ということです。**弊社が初めて考案した形状**で、看護師さんの意見を反映させました。

また、綿棒の固さもこだわったポイントです。

液量と綿棒の固さのバランスを取り、均等に広くまんべんなく塗布が出来るように設計してあります。

綿棒がやわらかすぎるとフィルムを突き破る前に綿棒形状が壊れてしまいますから、使用する際の固さ・使用に至るまでの固さ、非常に難しいポイントでもありました。

また、**綿棒の固さにこだわったことでスクラブしやすくなったことは大きな副産物でした。**

―完成した時のことは覚えていますか？

上本：今でも鮮明に覚えています。入社して3年目、初めて大きな開発製品を完成させて非常にうれしかったですが、それ以上に、**ご採用いただいた施設を訪問した際に「便利だよ」「良い製品だね」とおっしゃっていただき感動しました。**ちなみに、先輩には完成祝いでご馳走していただきました（笑）

プッシュ綿棒が売れないかも・・・という不安は全くありませんでした。むしろ、この製品は必ず役に立てる製品だという自信さえありました。あの日から、20年以上時がたっていますが、今ではヒット商品として皆様にご採用いただいております。

今後も新しい製品の開発し、皆様のお役に立てればと思いますので、たくさんのお声を聴かせていただければと思います。

ハクゾウメディカル株式会社
研究開発部 商品開発課　上本 英次

【職歴】

2000年：ハクゾウメディカル株式会社入社
数多くのハクゾウ製品の開発に携わる、
研究開発部のキーパーソン。